

## 編集委員会便り

7月号は本会の定時総会（東京4月18日開催）で表彰されました第2回技術賞（大阪ガス株式会社）「重質油トータルエネルギー利用システムの開発」の内容が紹介されています。総会に出席しましたが事前に会誌等で受賞者名などが公表されておらず会場で知った次第ですが、これは本会の独得の様式なのだろうと理解しました。その折の特別講演の1つ「リニヤモーターカー動向」が本号に筆録されております。ご講演からこの分野ではわが国が高い技術水準を保持していることを教えて頂いたように思います。論説では21世紀のエネルギー問題がとりあげられており、本号は本会の高い活動をよく反映しているのではないかと思います。

特集記事は林宗明委員長から準備するようお話があったのが丁度1年前と記憶しますが、8月頃に具体案を出さなければという事で種々調査を致しました。結局エネルギー・資源のジャーナルではあるが新素材は重要なテーマではないかと想い至り、過去の特集にも当たってみますと省エネルギー・省資源関連で既に2, 3採り上げられていたようです。

この機会に様々な分野の材料開発のお話を本誌に集めてみるのも読者の方々にもお役に立つのではないかと思います。金属材料、無機材料、有機材料と大きく3つにわけて各々の領域で最も関心の高いものをピックアップ致しました。超電導材料は既に本誌でも取り上げておられましたので有機化合物系に的を絞ることに致した次第です。紙面の都合もあって7つのテーマに集束させ、著者の方々には省エネルギー・省資源には把われず自由な立場で書いて頂くことになりました。その

方が有益であるという編集委員会の総慮があったからだと思えます。

特集案を考えてから、ほぼ10ヶ月程になりますが、その間酸性雨の問題や、炭酸ガスによる地球の温暖化など環境問題がクローズアップされて参りました。これらの課題は地球規模での調査、対策が考えられようとしていますが省エネルギー・省資源が改めて重要な課題になってきている様に思われます。

ニューマテリアルが拓く個々の世界は明確にされているのではないかと感じますが、全体としてどのような視点が拓けてくるのかといった内容の記事が欲しいところですが、これはなかなかむずかしい問題です。

むしろ読者の方々がこの特集をお読み下さり、またそれぞれのご専門での豊富な情報をインプットされ、各自が拓けゆく新しい世界への夢をつむいで頂けたらと思います。

限られた紙数の中で新素材の開発という大きな特集を組んだため、ややまとまりに欠くといったそりを免がれぬかも知れませんが、この点に関しましては編集委員会の方へ忌たんのないご意見を賜れば幸いです。

本号も明日を支える資源(26)として重晶石が採り上げられており報文一報の他、盛りだくさんな内容です。じっくりお読み頂きたいと思えます。

今年は6月から真夏のような日が見られましたが7月号という事で、暑さに向いまして皆様様の益々のご健勝の程をお祈り申し上げます。

野村正勝

(大阪大学工学部応用化学科 教授)